

「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」 ～言語環境の充実と授業の工夫を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

- ・一人一実践（年間6回）
- ・「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」実践する際の共通の日常的な取り組みについて（年間2回 検討後日々の実践）
- ・活用力をのばすためにできること（年間2回）
- ・英語について（英語の中核教員による伝達講習）
- ・教育課程講習会の環流報告

2 研究の具体的方法

- ・基本的には、一人一回、授業を公開する。そのうち、低・高1本ずつは共同研究とし、ブロックごとに事前に検討会をもち、その後全体会で検討する。その他は、授業を公開し、事後研究会を全員で行う。

3 「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」実践する際の日常的な取り組み

☆全校集会など、全校で集まるとき（話す人を見る習慣作り）

○挨拶は、号令なしで、相手の動きに合わせて行う。

前に立つ人	一歩前	礼	一歩下がって	礼
聞いている人	気をつけ	礼	気をつけ	礼

○全校集会や音楽集会、児童集会などの際、児童の気持ちを聞く場面をできるだけ作るようにする。

○みんなの前で発表するときは、できるだけ紙を見ないで発表する。

☆各学年の教室で

○学習のルールを決める

- ・授業の最初と最後は礼をして区切りをつける
- ・指名されたら、「はい」と言ってから発言する
- ・次の時間の準備をしてから休み時間にする など

○朝の会か帰りの会で、スピーチの時間をつくる。

○教師対児童の会話のやりとりだけでなく、できるだけ児童同士の会話ができるような機会を取り入れる。（話し合い活動や相互指名などの方法も学ぶ。）

○声の大きさの物さし・話し方の基本・話し合いの基本・上手な聞き方などを提示して児童のめやすとする。【学習ルールを教室に掲示】

○読書活動を推進する。

- ・おすすめの本20冊の継続
- ・読書の宿題を出すなど読書の時間の確保と読み聞かせの時間の確保

○合唱づくりからも学級づくりを進める。

4 活用力をつけるためにできること

- ・活用力とは何かを学習しあい、各学年でどんな取り組みをしてきたか、これからどんなことを中心に取り組んでいくかを確認し合った。年度末には、各学年で反省を出し合い、来年度に生かすことにした。

5 英語活動について

- ・英語中核教員による伝達講習を行い、教材の作り方、授業の進め方など、確認し合った。

II 成果と課題

1 成果

- ・研究主題は、児童の実態を分析して決定したものであり、児童の課題点を端的にまとめたテーマであり、よかった。
- ・共通の視点を取り入れ、同一歩調で取り組めたことがよかった。
- ・一人一実践で、実際に授業を見せ合い、具体的な支援の仕方、教材などについて学ぶことができ、有益だった。
- ・ブロック研究を取り入れたことにより、研究が深まった。
- ・活用力に関する各学年の実践報告がとても勉強になり、取り入れられるものは、他学年でも早速取り入れることができた。
- ・英語活動については、英語指導の具体的な方法を教えてもらい、今後、英語の授業を行う上で参考になり、スキルアップをはかることができた。

2 課題

- ・研究の内容が盛りだくさんだったので、もう少し絞った方がよかった。
- ・活用力については、研究が深まるまではできなかった。

III 成果物

- 1 第1学年 国語科授業案 「あつまれ、ふゆのことば」
- 2 第2学年 学級活動授業案 「私はわたしよ」
- 3 第3学年 国語科授業案 「『分類』ということ」
【低学年ブロック共同研究】
- 4 第4学年 国語科授業案 「伝言はまちがえずに」
- 5 第5学年 英語（外国語活動）授業案 「自己紹介をしよう」
【高学年ブロック共同研究】
- 6 第6学年 学級活動授業案 「学級レクリエーション大会を開こう」
- 7 「話し方」「聞き方」「声の大きさ」のめあて

(研究主任 赤星 美佐)